

20事業所 全国で高水準

県内

子育てサポートしています

認定マーク取得広がる

子育て支援や少子化対策などで一定の成果を挙げた事業所に厚生労働省が交付する次世代認定マーク「くるみん」の取得数が、徳島県内で増えている。18日現在、20事業所が取得しており、人口規模からみると全国でも高水準。事業所にとっては働きやすい職場のPRになり、採用活動などに役立っている。

2012年10月に取得した徳島市昭和町2の医療法人青志会。次世代育成支援対策推進法に基づいて10年9月、男性職員の育児休業の取得や短時間勤務制度の導入などの目標を定めた「一般事業主行動計画」を策定し、徳島労働局に提出した。

2年間の計画期間で目標を達成。さらに従業員への計画周知や託児所の設置運営など積極的に取り組んだ結果、労働局の審査で認定された。

くるみんマークは名刺や事業所パンフレットに



子育て支援などで一定の成果を挙げた事業所に交付される次世代認定マーク「くるみん」

ス向上にもつながる」と話す。

県内では、08年5月に大塚製薬工場(鳴門市)が初めて取得し、13年3月末に20事業所に達した。事業所規模の内訳は従業員301人以上が5社、101人以上300人以下で4社、100人以下が11社。

働きやすさPR／採用活動に活用

以下が11社。
行動計画の策定は従業員101人以上の事業所に義務付けられており、県内では11年4月から対象となる223事業所すべてで策定されている。

労働局によると、3月末現在、全国では約1400事業所がマークを取得。20事業所に達しているのは16都府県あるが、東京や大阪、愛知など都市部がほとんどで、人口でみると徳島は最も少ない。行動計画の策定数に対する取得率は、東京に次いで徳島は全国2位。

労働局は「行動計画の策定義務のない小規模事業所にも呼び掛け、育児のしやすい職場環境を増やしたい」としている。

19日には交付式が徳島労働局であり、3月に認定を受けた徳島健康生活協同組合、テクノモバイル、県労働者福祉協議会(いずれも徳島市)にくるみんが交付される。

(矢田諭史)